

(教養試験 高等学校卒業程度 No. 1)

日本国憲法における人権保障に関する次の記述のうち妥当なのはどれか。

1. 基本的人権は、天皇からの恩恵として、国民に与えられたものである。
2. 国は、法律の根拠があれば、基本的人権に対していかなる制限を加えることも許される。
3. 国民は、基本的人権を濫用してはならず、常に公共の福祉のために利用する責任を負う。
4. 基本的人権は個人の権利であるから、会社などの法人には保障されない。
5. 基本的人権が私人同士の間で侵害された場合、裁判所は、憲法の基本的人権の規定のいずれについても、私人間の関係に直接適用して紛争を解決する。

正答番号 3

(教養試験 高等学校卒業程度 No. 2)

次のうち、下線部分の漢字が正しいのはどれか。

1. 不要な擬惑を招く言動は避けるべきだ。
2. まずは斬定的な企画案を作成する。
3. 彼は別の話を前後の脈酪なく始めた。
4. お世話になった人にお歳慕を贈る。
5. 壯年期に入り、ますます仕事に打ち込む。

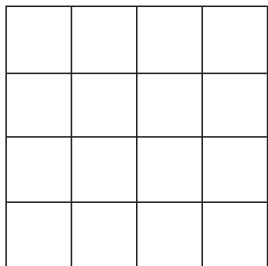
正答番号 5

(教養試験 高等学校卒業程度 No. 3)

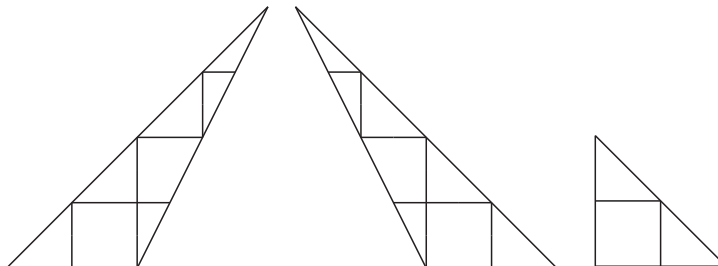
正方形の紙を用意し、図Ⅰのように紙の表側に16等分する線を引いた。この紙を五つの紙片に切り分けたとき、そのうちの三つが図Ⅱのようであったとき、残りの二つとして妥当なものをア～エのうちから選んでいるのはどれか。

ただし、紙は裏返さないものとする。

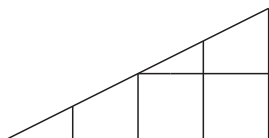
図Ⅰ



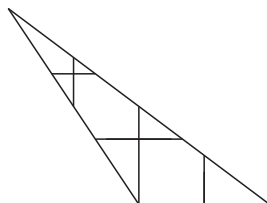
図Ⅱ



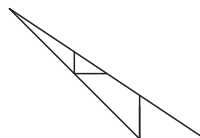
ア.



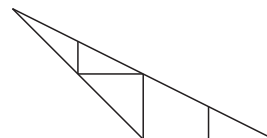
イ.



ウ.



エ.



1. ア, イ
2. ア, ウ
3. ア, エ
4. イ, ウ
5. イ, エ

正答番号 3